

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | |
|---------------|---|
| 事業所番号 | 4070200599 |
| 法人名 | 株式会社 アネックスジャパン |
| 事業所名 | グループホーム すずらんの家 |
| 所在地 (電話番号) | 福岡県北九州市若松区大字畠田25-1 (電話) 093-772-1200 |

| | | | |
|-------|------------------------|-------|-------|
| 評価機関名 | 株式会社アーバン・マトリックス | | |
| 所在地 | 北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8F | | |
| 訪問調査日 | 平成19年10月29日 | 評価確定日 | 12月7日 |

【情報提供票より】(平成19年9月24日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-------------|--------|------------------------|
| 開設年月日 | 平成14年11月15日 | | |
| ユニット数 | 3 ユニット | 利用定員数計 | 27 人 |
| 職員数 | 23 人 | 常勤 | 17人, 非常勤 6人, 常勤換算 4.2人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|----------------------------|
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート造り 3階建ての2階～3階部分 |
|------|----------------------------|

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|---------|----------------|----------------|---|
| 家賃(平均月額) | 70,000円 | その他の経費(月額) | (水道光熱費)10,000円 | |
| 敷金 | 無 | *夏期・冬期は3,000円増 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| または1日当たり | | 1,670円 | | |

(4) 利用者の概要(9月24日現在)

| | | | | | |
|-------|----------|------|-----|----|------|
| 利用者人数 | 26名 | 男性 | 4名 | 女性 | 22名 |
| 要介護1 | 5名 | 要介護2 | 6名 | | |
| 要介護3 | 10名 | 要介護4 | 5名 | | |
| 要介護5 | 0名 | 要支援2 | 0名 | | |
| 年齢 | 平均 85.5歳 | 最低 | 66歳 | 最高 | 100歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------------------------------|
| 協力医療機関名 | 岡内科クリニック / 東筑クリニック / 二島デンタルクリニック |
|---------|----------------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームすずらんの家」は、小高い丘に位置するし、3階建ての建物で、食堂からは若松が一望出来る眺めを有している。各階には建物を1周り出来るバルコニーがあり、バルコニーで自由に散歩を楽しむ事ができるように工夫されている。バルコニーは夏には、にがうりや朝顔の鉢植えの季節の花も植えられ、季節感を感じることができるように支援している。屋内のスペースは広くゆったりしており、各居室からの眺望も良く、入居者の皆さんは笑顔も多く会話も弾み、暮らしを楽しまれている。地域との関係は周辺には住宅が少ないが、夏祭りなどの行事を自主企画し、地域の方々が気軽に立ち寄りいただける場所になればと地域との交流に積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の調査では、地域との交流と記録の工夫が課題になっている。記録は職員全員で話し合って整理・工夫を行っている。地域との交流では、グループホーム主催の夏祭りなどの行事に近隣の住民の方に声をかけ、参加に結びつけるなど改善に向けて取り組んでいる。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| 重点項目 | 前回の評価報告を参考にして、3ユニットの管理者を中心に話し合って自己評価を行ったが、立地条件を含めた課題に関して、日々取り組んでいる状況がある。 |
| | 運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) |
| 重点項目 | 運営推進会議は、地域包括支援センターの職員・民生委員・入居者・家族が参加し、定期的に2ヶ月に1回開催し、グループホームの活動報告などを行い、出席者からの意見を参考にサービスの質の向上に取り組んでいる。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) |
| | 運営推進会議は、家族が意見を言っていたり活かす機会として活かし、出された意見は随時取り入れ、外出や趣味・レクリエーション活動など反映していくなど、サービス面の向上を図っている。職員は家族の面会時には積極的に話しかけ、家族の意向や意見・要望を言っていたりするように努めている。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| 重点項目 | 小高い丘の立地という環境の中で、地域との日常的な交流が難しい状況にあるが、自治会への加入・敬老会の参加などを行い積極的に交流を図るように努めている。今後は、ボランティアの活用・家族の協力などにより、ホームから外へ向かって、活動の充実を図りたいと考えている。また、今後は、認知症介護のノウハウを活かし、地域への情報発信など取り組まれることが期待される。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|---|-----|---|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 六つの理念を掲げ、家庭的な環境の中で、一方的にお世話するのではなく、一人ひとりの自主性を重んじた“見守り”を主とした支援に取り組んでいる。法改正により、地域密着型サービスとしての理念の内容が求められる。 | ○ | 平成18年の法改正により、理念に地域の中でその人らしい生活をする事を支えるケアを目的とした地域密着型サービスの役割を担う内容が求められ、理念の文書の修正または追加が必要である。 |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 六つの理念は、入居者や家族の方に理解していただくために玄関に提示し、職員は勤務につく前に今日の目標を決めて1日の介護にあたっている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会に入会し、夏祭り・敬老会などの行事に参加しているが、建物が高台にある為、近所の人々が気軽に日常的に訪問するには困難な為、日常的な交流が難しくなっている。しかし、職員は常に近隣の家を訪問し、事業の説明や介護相談を受けることを説明し続けている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回の調査では、地域との交流と記録の工夫が課題になっている。記録は職員全員で話し合っ整理・工夫を行っている。地域との交流では、グループホーム主催の夏祭りなどの行事に近隣の住民の方に声をかけ、参加に結びつけるなど改善に取り組んでいる。 | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を開催し、入居者・家族・民生委員・地域包括支援センターの職員などが参加し、グループホームの活動報告などを行い、出席者からの意見を参考にサービスの質の向上に取り組んでいる。 | | 運営推進会議の場を活かし、地域との交流やふれあいを含め、更に地域との連携を高めることが求められる。地域において認知症介護の理解を育むなど、地域への情報発信の機会としてとらえ活かしていくことが期待される。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|--|-----|-----------------------------------|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 若松区役所主催の地域ケア研究会に定期的に参加し、行政・医療・福祉関係者とのネットワークを構築し、情報交換を行うと共にサービスの質の向上に取り組んでいる。今後は、北九州市の担当課との情報交換や相談などを行いたいと考えている。 | | |
| 7 | 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。 | 入居前から成年後見制度を利用している入居者が2名おり、利用にあたってのマニュアルを整備しており、必要な人には説明できる体制づくりに取り組んでいる。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 8 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月、入居者の状況は定期的に利用料金請求書と写真や手紙(本人からの)などで報告している。毎月「すずらん新聞」も発行し行事予定などを報告している。また、職員は家族の面会時には積極的に話しかけ、入居者の状況を報告するようにしている。 | | |
| 9 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議は、家族が意見を言ってもらえる機会として活かし、出された意見は随時取り入れ、外出や趣味・レクリエーション活動など反映していくなど、サービス面の向上を図っている。職員は面会時には、家族の意向や意見・要望を言ってもらえるように努めている。 | | |
| 10 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員のユニット間の移動は極力行わないように配慮し、入居者と職員のなじみの関係を大切に職員配置を行っている。退職者が出た場合は、事前にきちんと説明し入居者のダメージを防ぐように努めている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 11 | 19 | 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。 | 性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。職員が生き生きと勤務できるように、1ヶ月に1回、各ユニット全員参加のミーティングを開き、職員の意見や提案を聞いている。職員が自由に意見を言いやすい人間関係に努め、良い意見は運営に反映していくように努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| 12 | 20 | 人権教育・啓発活動 | 職務につく前に必ず理念を言い、入居者の人権を尊重するように意識づけを行っている。また、人権に対するマニュアルも各ユニットに配布している。また、ミーティングの場でも皆で話し合っている。 | | |
| | | 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。 | | | |
| 13 | 21 | 職員を育てる取り組み | 北九州市社会福祉研修所主催の認知症介護実践者研修を積極的に受講するように努めている。また、その他の外部研修にも参加できる体制がある。内部研修は月1回全員参加で、ミーティングを合わせて行い、職員のスキルアップを図っている。 | | |
| | | 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | | | |
| 14 | 22 | 同業者との交流を通じた向上 | 介護サービス事業者連絡会に参加し、他グループホームとの交流を行っている。訪問交流は、外交担当の職員が担当しており、情報交換などを行っている。今後は、合同研修やホームの入居状況などの情報交換を行い、更にネットワークを高めていきたいと考えている。 | | |
| | | 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 15 | 28 | 馴染みながらのサービス利用 | 入居にあたっては、同法人が運営するデイサービスセンターで、デイサービスやショートステイの利用からはじめてもらい、少しずつ環境・職員との関係になじみながら入居できるように支援している。 | | |
| | | 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 16 | 29 | 本人と共に過ごし支えあう関係 | 介護の場ではなく、生活の場である事を意識して関係づくりを行っている。入居者と職員の会話や態度が、介護をされる側・する側という区別を感じることがない暮らしを実現している。 | | |
| | | 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|----|--|---|-----|---|
| . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 17 | 35 | 思いや意向の把握 | アセスメントをしっかりと行い、状況・状態の把握に努めている。毎日の暮らし中での会話や表情から希望の意向を探り、職員間で、その情報を共有し話し合う場を作っているが、入居者一人ひとりの意向や希望にそった支援は課題となっている。 | ○ | フェイスシートなどに一人ひとりの情報が追加できるように日々の生活の中での情報収集に期待したい。 |
| | | 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 18 | 38 | チームでつくる利用者本位の介護計画 | アセスメントにもとづいて、介護計画が作成されているが、今後は審査会終了後の情報や医療情報の収集が必要である。 | ○ | 本人を取り巻く多くの情報をもとにして、入居者個人の思いや意向を知り、より良く暮らし続けるための介護計画作成に向けて、家族と共に検討を行うことが求められる。 |
| | | 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | | | |
| 19 | 39 | 現状に即した介護計画の見直し | 3ヶ月に1回モニタリングを行い、プランの検討・見直しを行っている。目標の設定に対して、ケア内容が日々実行されているかどうかの記録が少ないため、目標設定を意識した記録の充実が求められる。 | ○ | 本人の意向を中心に家族や職員の目を通した介護計画が求められる。また、目標設定に対して、日々のケア内容の実施記録を充実させることが求められる。 |
| | | 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | | | |
| 20 | 41 | 事業所の多機能性を活かした支援 | 同法人が運営するデイサービスと協力し合同で、クリスマス会を開催するなど交流・ふれあいを楽しんでいただく企画を実施している。また、外出支援なども柔軟に対応している。 | | |
| | | 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 21 | 45 | かかりつけ医の受診支援 | 2週間に1回、主治医による往診や受診体制があり、適切な医療が受けられるように支援している。 | | |
| | | 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|--|---|-----|---|
| 22 | 49 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 | 要介護が高い入居者が多く、100歳の高齢の入居者もいるので、家族と主治医と共に話し合いながら、ターミナルの方針を決めている。終末期に関して、入居者・家族の同意書や看取りの方針など書類整備が求められる。 | ○ | 終末期の対応や体制を明確に記した書類整備が必要で、医療関係者を含め、話し合いながら、同意書や方針の書類を作成していく必要がある。 |
| | | 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | | | |
| .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 23 | 52 | プライバシーの確保の徹底 | 入居者のプライバシーや個人情報の保護には十分注意し、自尊心を傷つけないように声かけや態度には注意しているが、職員間で差がみられた。日常的に職員間で相互に気をつけるなど、日々の取り組みに期待したい。 | ○ | 職員の個性もあり、特に言葉使いは無意識な場面が多いため注意が必要である。日々の気づきやミーティングなどでよく話し合われることが求められる。 |
| | | 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | | | |
| 24 | 54 | 日々のその人らしい暮らし | 食事・入浴・掃除・レク・体操の時間は、一日の予定に入っているので、一人ひとりのペースに合わせる事ができないが、予定のない日は希望に添えるように支援している。レクや体操など参加は自由であり、入居者の自己決定を尊重し、その日のリズムに合わせた柔軟な支援が求められる。 | ○ | 一人ひとりの意向や希望を中心とした介護計画を優先して支援を行い、決められた時間も柔軟性を持って対応できないか、検討が求められる。 |
| | | 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 25 | 56 | 食事を楽しむことのできる支援 | 調理は外部委託となっているので、配膳や片付けは、できる入居者に負担にならない程度に行ってもらっている、食事中はBGMを流して楽しく食事ができるように雰囲気づくりなど工夫している。時々、外食も楽しむように支援している。 | | |
| | | 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | | | |
| 26 | 59 | 入浴を楽しむことができる支援 | 職員の一日の流れもあり、通常は夕方16～18時頃に入浴を行っている、他の時間でも希望があれば柔軟に対応していきたいと考えている。 | | |
| | | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---|--|-----|---|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 27 | 61 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 | 意欲的に活動して頂けるように、散歩やレク・行事などに参加して楽しみや喜びを得られるように努めている。毎日の暮らしの中で野菜作り・花の水やり・洗濯物の片付けなど楽しく役割を持っていただくように支援している。 | | |
| | | 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | | | |
| 28 | 63 | 日常的な外出支援 | 職員と車の確保の都合で、その日の気分での外出は行っていないが、計画・準備してから、個別の外出支援を行っている。 | ○ | 外出を好まれる方が多い場合は、外出の機会を増やす工夫が求められる。例えば、ボランティアや家族の協力など検討されてはいかがだろうか。 |
| | | 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 29 | 68 | 鍵をかけないケアの実践 | 玄関に鍵をかける事が無く、誰でも訪ねて来ていただけるようにしている。各居室の窓・ユニットの出入り口の鍵も開放している。(玄関は夜間のみ鍵をしている) | | |
| | | 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | | | |
| 30 | 73 | 災害対策 | 災害時のマニュアルを整備している。平成19年5月21日に消防署に協力してもらい火災訓練を行っており、毎年定期的に火災訓練を行っている。 | | |
| | | 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 31 | 79 | 栄養摂取や水分確保の支援 | 調理委託をしている事業所の管理栄養士により、栄養バランス・カロリー計算をもとにした献立が作成されている。水分摂取量は1日1,500mlを目安に摂取し、摂取状況は記録されている。 | | |
| | | 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|---|--|-----|-----------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 32 | 83 | 居心地のよい共用空間づくり | 眺望の良い食堂・広い居間・大きなテレビとソファなど、ゆったりと過ごすことができる空間となっている。入居者の好みに合わせた椅子が思い思いの所に置かれ、入居者同士での会話が弾むような雰囲気づくりが工夫されている。 | | |
| | | 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | | | |
| 33 | 85 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 | 本人や家族と相談しながらの居室作りがされ、居室は個室で9.5畳と広く、使い慣れた家具やテーブルや椅子・テレビ・ぬいぐるみ・好きな花など楽しく自分らしい暮らしができるように支援している。 | | |
| | | 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | | | |